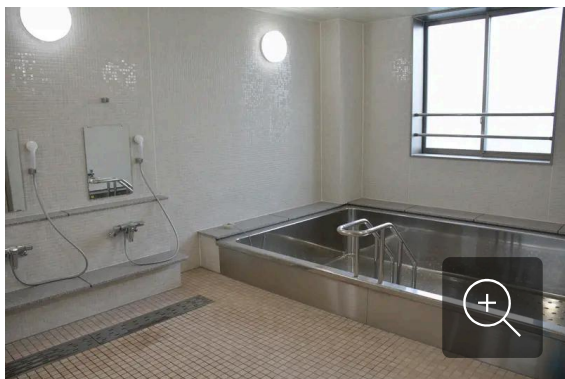


山林火災で今治市ごみ処理施設に54人避難 建設時から防災拠点を想定

社会 | 速報 | 愛媛 | 四国

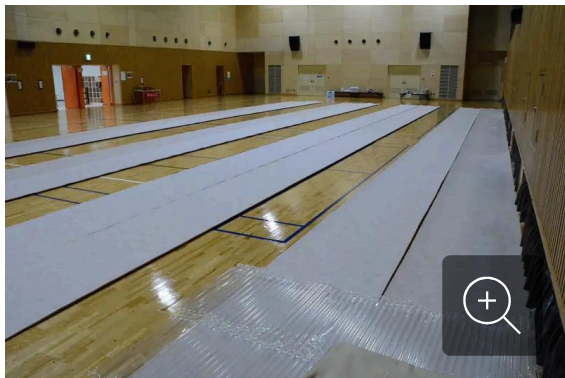
毎日新聞 | 2025/3/27 12:20 (最終更新 3/27 18:12) | 424文字



バリクリーンの浴室。施設自前の電力、給湯で利用できる = 愛媛県今治市で2025年3月27日、松倉展人撮影

山林火災の延焼が続く愛媛県今治市が、市のごみ処理施設「バリクリーン（市クリーンセンター）」（町谷）を25日夜から避難所として提供している。2018年にできた同施設は災害時に最大320人が避難でき、完成当初から地域の「防災拠点」として想定されていた。

バリクリーンはごみ焼却熱を利用し、3800キロワットの発電能力を持つ。避難所機能としては、320人が7日間生活可能な食料、水、生活用品、衛生用品などを備蓄している。



230人前後が使用可能なバリクリーンの大研修室。段ボールのパーティションで2人ずつを仕切る想定だ = 愛媛県今治市で2025年3月27日、松倉展人撮影

今回の火災を受け27日までに最大54人が身を寄せ、複数の携帯電話事業者が充電器やWi-Fiルーターを提供した。避難の長期化に備え、仕切り用のパーティション、男女各2基のシャワー室、浴室、キッチンなども使用可能となっている。

施設は、地域住民やNPO団体とともに炊き出しや避難所の開設、救急救命措置などの訓練を年1回ほど続けている。市環境施設課の浅海文明課長は「市民のために今後も備えを徹底、充実させたい」と話している。

【松倉展人】